

明石海峡横断航路の「まりん・あわじ」に乗る

事務局長 池田良穂

明石海峡大橋が開通してからしばらくの間、明石港と岩屋港の間の海峡横断航路には、高速旅客船と愛称タコフェリーのカーフェリーとが就航していましたが、フェリーは撤退して、今は淡路ジェノバラインの高速船サービスだけが残っています。この航路にバイクの輸送ができるカーフェリー仕様の高速船「まりん・あわじ」が就航して4年余り。同船は、船は淡路市が建造して、淡路ジェノバラインに貸与して運航されるという上下分割型の運航が行われており、毎年、その運航状況の審査が行われています。今年も、その季節となり、岩屋港のターミナルビルで開催された審議会に出席するために同航路の船で明石海峡を渡りました。

明石港は JR 明石駅から徒歩 10 分ほどの便利なところにあります。港に着くと棧橋には 19 総トンの高速旅客船「レットスター2」が停泊していました。この船は早朝の乗客が少ない時や臨時便の時に使われており、その横にはさらに小型のモーターボート「ジェノバII」も繋がれていました。

やがて「まりん・あわじ」が入港してきて、バイク、自転車、そして乗客が下船して、すぐに乗船が始まりました。1階は椅子席で、2階にはオープンデッキがあります。もちろん、見晴らしの良いオープンデッキに登って出港を待ちました。なかなか快適なスペースなのですが、エンジンの空気取入口と空調の室外機が両舷にあり、その騒音にはいささか閉口しましたが、なんといっても明石大橋がよく見え、かつ明石海峡を通過する大小さまざまな船とも遭遇しますのでがまんして耐えました。航海時間はわずか 13 分。橋の下を通過して岩屋港に入ると、棧橋には「ジェノバ 1」と「まりんふらわあ」が繋がれていました。「まりんふらわあ」は、一時洲本～関空航路に投入されていましたが、乗客が少なくて撤退して岩屋に戻っていました。

明石海峡航路の利用客は年間 75 万人。その多くが通学・通勤・買い物等で行き来する住民です。さらに 9 千台のバイクと 3 万台の自転車を運んでいます。今後は、観光需要をどのように増やすかがキーになりそうです。



明石の高速船ターミナルです。



棧橋には「レットスター2」が繋がれていました。



小型モーターボート「ジェノバII」も繋がられています。



「まりん・あわじ」の入港です。



まりん・あわじの船内椅子席です。



2階のオープンデッキです。エンジンの空気取入口と空調室外機の音がやかましいのが玉に傷でした。



海峡でたくさんの船と交差します。



岩屋港には「ジェノバ1」(左)と「まりんふらわあ」が繋がっていました。



帰りにオープンデッキから撮影した「まりん・あわじ」の航跡です。同デッキの後方に明石海峡大橋の絵が描かれていました。